

平成24年3月31日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

陸前高田市議会福幸の会

会長 佐竹 強



政務調査活動概要報告書

政務調査費に関する取り扱い要綱第6条第2項の規定により、平成23年度政務調査活動報告をいたします。

記

1. 調査事業

(1) 実施日 平成24年3月26日(月)～27日(火)

(2) 場所 東京大学

(3) 参加者 会長 佐竹 強、 幹事長 大坂 俊、 以上2名

(4) 行程

3月26日(月) 陸前高田市9:00発～一ノ関駅10:38発～東京駅13:24着～
神田駅～東京大学～ホテル

3月26日(火) ホテル9:00発～東京駅10:40発～水沢江刺13:24駅分着～
陸前高田市着

(5) 調査項目

①気仙広域環境未来都市構想について

②復興に向けた課題解決のための意見交換

(6) 調査概要

3月26日、気仙広域環境未来都市構想の進捗状況、及び今後の課題の調査のため、東京大学工学系研究科システム創成学研究室に宮田秀明教授を訪れ、意見交換を行いました。

同研究所では、気仙二市一町の復興のため、環境未来都市基本設計プロジェクトチームを作り、立案化し、各市町に提案しているところであり、プロジェクト



は、太陽光発電所、コンパクトシティ、植物工場・水産加工EMS、木造環境住宅団地、医療・介護の5チームで構成され、産業界、学界さらに、地元業者等が参加しているとの事でした。

現在、大船渡市では行政の協力を得て、3月にはキックオフミーティングを開催出来たとの事ですが、陸前高田市においては、未だに市民及び行政当局に対して、上手く説明出来ていないようでした。

東京大学を辞した後、プロジェクトの医療・介護チームのコーディネーターをつとめる社会システムデザイン(株)の山村友幸氏を訪ね、意見交換をしました。山村氏によれば、医療・介護の分野において、在宅生活を支える、訪問医療・介護・リハビリ病棟、診療所が連携した医療モデル、そして先進的なICT技術を活用した医療福祉情報ネットワークの設計などを目指しているとの事でした。

東京大学等での調査で特に感じたことは、各復興事業に対する中央各界の暖かく力強い支援の姿勢であり、この支援をいかにして復興に結びつけるかが私たち議員にとっての今後の大きな課題であることを考えさせられた、調査・視察でありました。